

O : これってあり?!



のっけから変な写真で申し訳ありません。でもこれってあり?!  
って感じじゃありませんか?

新宿西口の地下駐車場にあるトイレです。一体何をどうすればこんな形を放置できるんでしょう。何かの手違いって、どう手違いすればいいのか?これを施工した人は一体どういう感覚を持っているのか?そもそも仕切り板の選定そのものがなんかおかしくありませんか?このサイズだったら仮に二つの小便器の間にあっても殆ど機能しないような気がするなあ……

上海郊外のレストランでのトイレも変だった。扉を開けてビックリ、いきなり大便器なんです。小便器は奥の間仕切り壁の中にある。この設計思想も分からんなあ。トイレっちゅうもんは小便器の方が手前にあって当たり前だとの常識への挑戦だ。理屈っぽい僕はつい考えてしまう。



1) 利用頻度。利用頻度の高いものを手前に持つてくるのが適切。めったに使わないものは奥にあってもいい。この近辺の人は小便の回数より大便の回数が多いのか?

2) 利用時間: 利用時間が短くてすぐに利用者が入れ替わるものは手前に持つてくる。この近辺の人は小便より大便の方が時間が短いのか?

3) 隠匿の必要性: 隠す事が多いものは奥に配置する。この近辺の人は小便をしている姿を見られるのが大便をしている姿を見られるより嫌なのか?

4) スペースの有効利用: 小便器は必要スペースが小さく後ろの空間が通路として利用可能であるが故に大便器より手前に配置されることが多い。この近辺でもこの理屈は同じはずだが……

いずれも Tomy Jr.さんのコメントが聞ければなあと思ってます



(2006.5.20)

矢澤洋爾の

# Photo Essay

## 1：パック旅行賛歌

パック旅行が好きだ。

第一に安い。4月15日(土)から二泊三日で行った上海・杭州の旅行は三食・宿泊付きで49,800円である。旅行会社の案内には一人39,800円。但し一人で参加の場合、一人部屋使用として10,000円追加、とある。僕は基本料金が一人49,800円で二人で参加すれば合計79,600円に割引される、と解釈している。

同じバスで観光する事になった一団は合計27名。一人で参加しているのは案の定僕だけ、夫婦での参加が4組あり残りはすべて女性の二人連れだった。27名中の男女比は5対22。男性は旅行に興味がないのだろうか？少なくとも僕は休みの日暗いうちから起き出してやらなきゃいけないゴルフよりは料金的にも大差ない海外旅行の方がずっといいのだが・・・

パック旅行の良い点の二番目は主要な観光ポイントを効率良く連れ回してくれる事だ。知らない場所で自由な時間があってもそれを生かすのが難しい。バスを貸し切りにして観光名所だけを移動のための待ち時間

も無く効率的に回るのが初めての場所には適している。自由のない快感、これは迷がないからだろうか。パック旅行で唯一の自由時間といえば夕食後ホテルで解散した後の時間。街の中をブラブラして、少し疲れたらカフェで一杯やりながら行き交う人々の様子を見る、これも僕の旅行の楽しみ方の一つである。

ただ一つパック旅行の難点と言えば必ず土産物屋へ連れていかれる事だ。写真の場所、上海で最も



モダンだという「新天地」もそうだ。もともと買物には全く興味のない僕はこの時だけは時間の潰し方に苦勞する。所在もなく時間が過ぎるのを待つ僕の耳に同じバスに乗り合わせた女性の声が聞こえた。「今回の旅行は買物の時間が少なくてちょっと不満だわ。この前香港へ行った時にはもっと沢山買物する時間があつたのに・・・」人それぞれ。

僕は香港だけはパック旅行を遠慮しようと思った。

(2006.5.3)



## 2 : 10 年間で起きた事



10 年間眠っていた人が長い眠りから覚めて現在の世界を見た時、何に一番驚くだろうか？

車も電車も飛行機も 10 年前と殆ど変わらない。

家の中でもテレビは薄型の大型テレビが増えはしたが根本的な違いはないし、冷蔵庫や洗濯機に至っては全くと言っていいほど変わっていない。一番変わって然かるべきだと思われるパソコンにしてからが、ウィンドウズ 95、いやそれが見本としたマッキントッシュのファインダシテムから大きな変化をしているとは思えない。

10 年の眠りから覚めた人が一番驚くのはこの写真の風景、つまり街に公衆電話が見当たらなくなったという事ではないだろうか。かつてはこういう場所には少なくとも 5、6 台、多いところでは 10 台以上の公衆電話が置かれ、それでも順番待ちをする人が列を作っていたりした。しかし今は申し程程度に一台がポツンと置かれ、それでも誰も列を作ることもない。

電話をめぐる風景こそこの 10 年で最も激しく変化したものであるに違いない。そもそも電話にカメラが付くのが当たり前になるなど 10 年前の誰が予測しただろうか？今では電話にウォークマンが付き、テレビまでが付いている。クレジットカードや定期券までが付こうかという勢いだ。10 年前の人にウォークマン付き電話と言っても全くイメージして貰えないだろう。



この大きな変化、その不思議の一つがこの変化を誰も予測しなかった、いや誰も積極的に望みもしなかった節があることである。手塚治虫が鉄腕アトムの連載を開始したのが昭和 26 年である。その第一話で手塚治虫は 2000 年後の世界、つまり西暦で言えば 3950 年頃の世界を描いた。空飛ぶ円盤があり鏡光膜があつたり透過聴音器があつたり気体人間がいたりするその世界で、電話は昔ながらの黒電話スタイルで描かれている。プッシュホンですらない。重力から自由になりたい、自由に時空を飛びまわりたいという人間の強い欲望が様々な未来製品を想像させたが、こと電話については左程の不自由

を感じなかったが故に新しいスタイルを思いつく事がなかったのだろう

変化は人間の欲望とは別の論理で動いている。次ぎの 10 年での最も大きな変化はきっと予想もしないところで起こるに違いない。

